

# 岡山を主要拠点に

## 物流センターを新設

### シクロケム

シクロケムは、事業拠点の機能高度化による新たな運営体制を整備する。神戸、東京に続き、岡山を第3の主要拠点に位置付け、ロジスティックセンターを今秋新設するほか、商材開発に必要な原料農産物の調達などを担い、3拠点の連携強化による研究開発(R&D)の推進、顧客サービス向上を図る。機能性糖質シクロデキストリン(CD)と組み合わせた機能性食品素材のエビテンスの追求、グループ企業コサナによる健康食品販売など順調な既存ビジネスの加速につながるとして「2020年には年商50億円超とする計画」(寺尾啓二社長)。

### 機能性食材 3 拠点連携し機能追求

シクロケムは神戸、東京の2本社制のもと、神戸が研究開発、東京が営業と情報収集と役割分担を図りながら事業展開を行っているが、今年後半から新たに岡山を拠点として機能を整備し、主要業務を割り当てる。

岡山には現在、岡山市内にコサナ岡山支店とその物流倉庫があるが、赤磐市吉原に1億2000万円を投資し、ロジスティックセンターを11月に新設する。また社会活動として介護・リハビリ施設もオープンする。岡山の拠点は、同社が以前から加齢にともなう筋萎縮(サルコペニア)の予防につながるとして注目してきたウルソール酸が果皮に含まれるリンゴ栽培が盛んな和気町に近い。その好条件を生かし、リンゴの需要拡大を目指す

ている同町を介し、リンゴ園と原料供給のための協力を取りつけた。

一方、今年完成した神戸本社は、R&D施設のスペースの拡充、スポーツ科学の実践の場としてのテニスコート併設し、ビジネス・化学・スポーツを一体化した取り組みが推進できるように整備。CD関連の技術開

発が15件ほど進行中だが、新たに岡山で調達可能なリンゴ果皮由来の抽出物と、CD技術を組み合わせ、大学などとサルコペニア予防を目的にエビテンス取得に向けた研究を行う予定。さらに東京本社は、17年1月をめぐりにオフィス移転を計画。同じ日本橋エリアだが、スペースが現在の2倍に拡張され、営業の利便性の確保やセキュリティ機能を強化し、顧客サービスを充実させる環境を整える。